

伊豆大島における土砂災害の地域的な特徴

55年前にも起こった
山つなみ・・・そう言って語り継がれていた

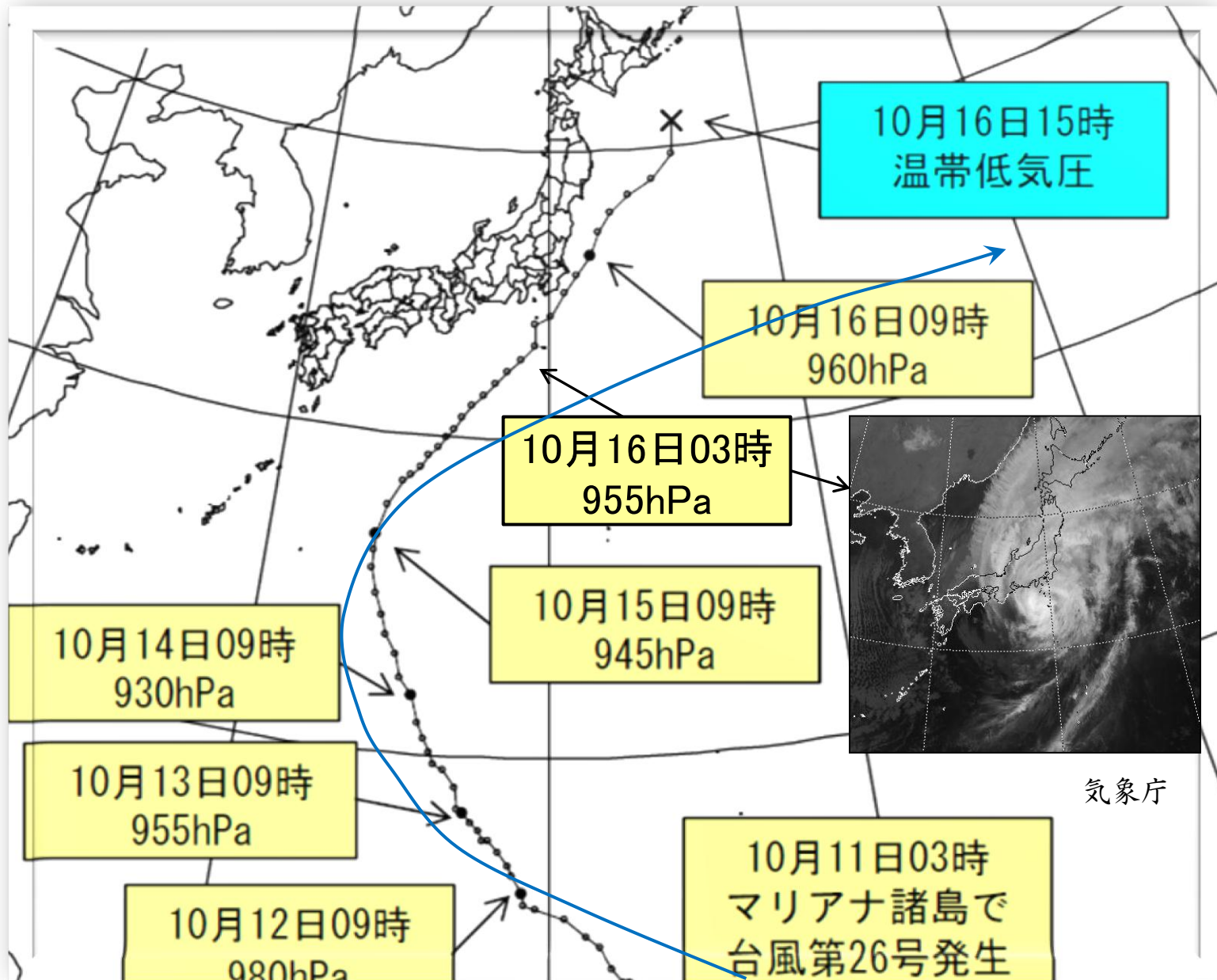
記録的な大雨
局地的な大雨

反復性

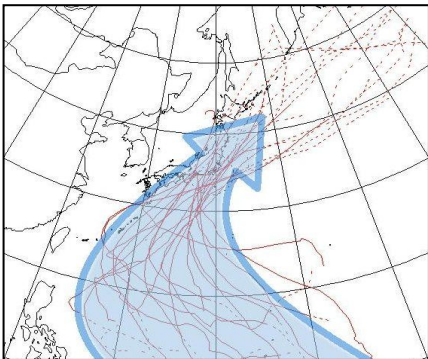


災害を繰り返さないために

台風第26号の経路



台風と大雨との関係

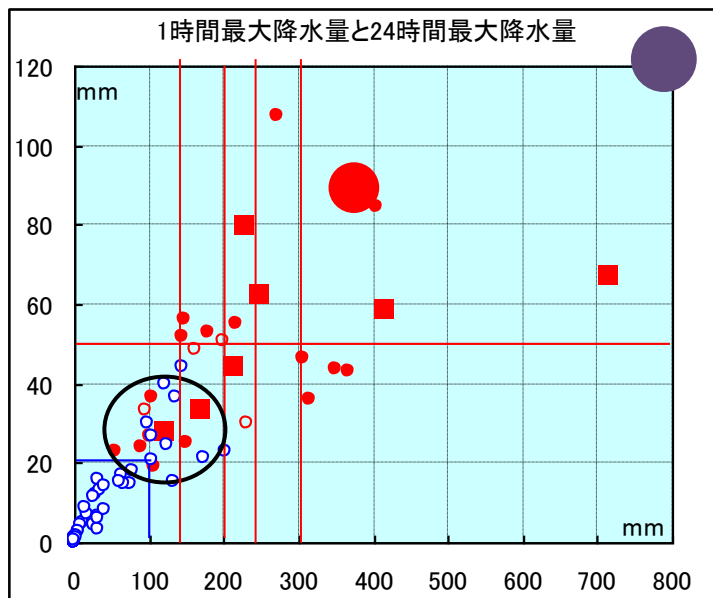


南西から北東へ進む
300km以内に接近
前線が存在



大雨になる
(54年間の台風211個のうち21個)
1時間45ミリ以上
24時間270ミリ以上

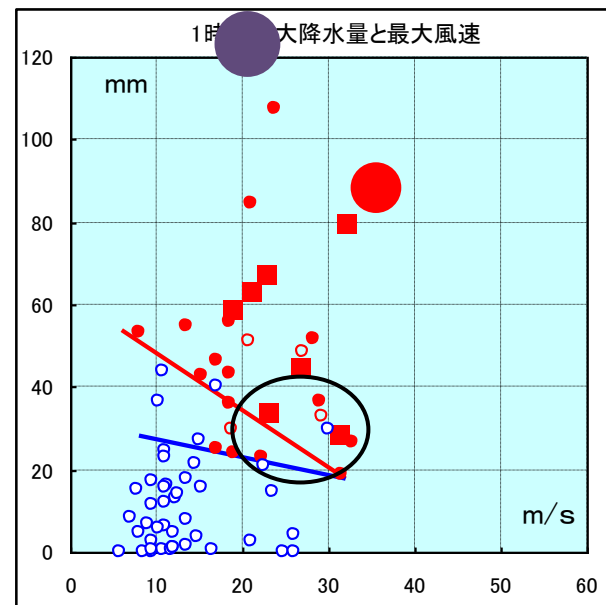
大雨と災害との関係



24時間 150mm以上
1時間 50mm以上

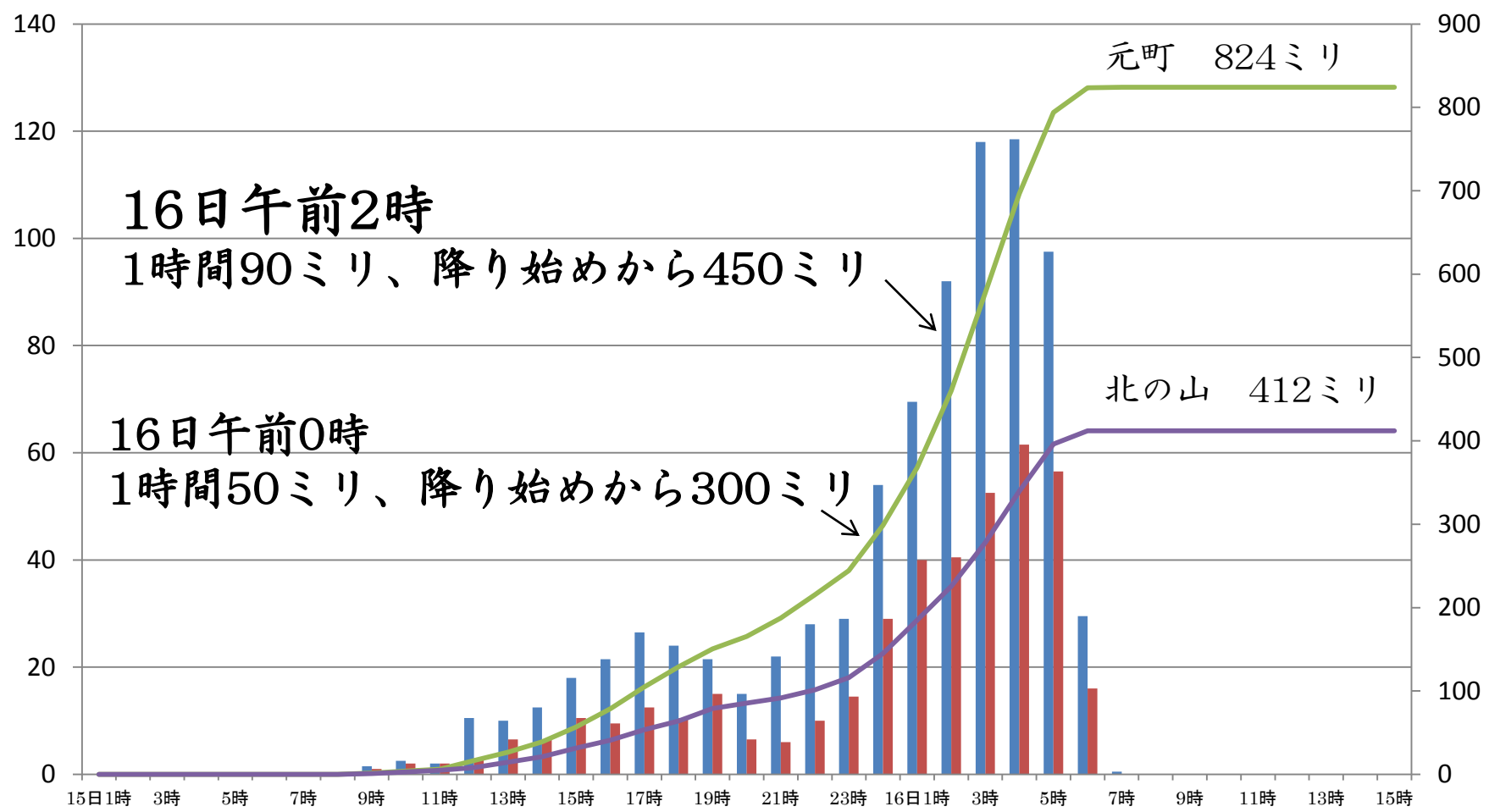
24時間 300mm以上
1時間 50mm以上

最大風速
20メートル以上



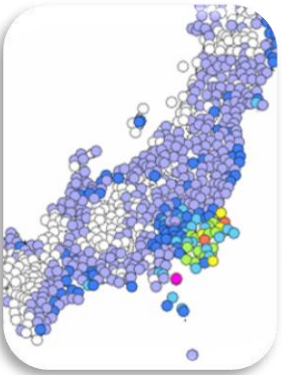
記録的な大雨

1時間降水量	122.5ミリ	日本記録	153ミリ	千葉県
24時間降水量	824ミリ	日本記録	851ミリ	高知県

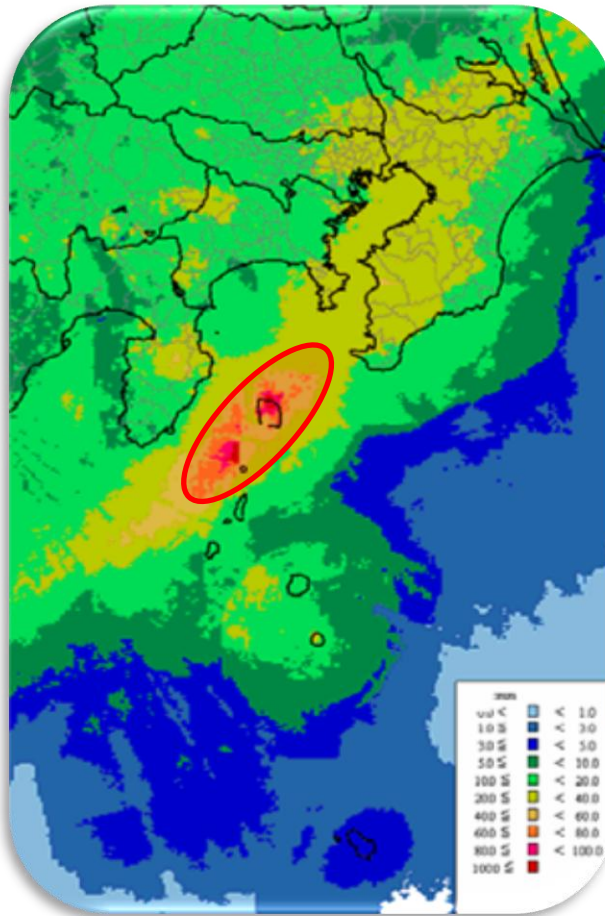


著しい局地性

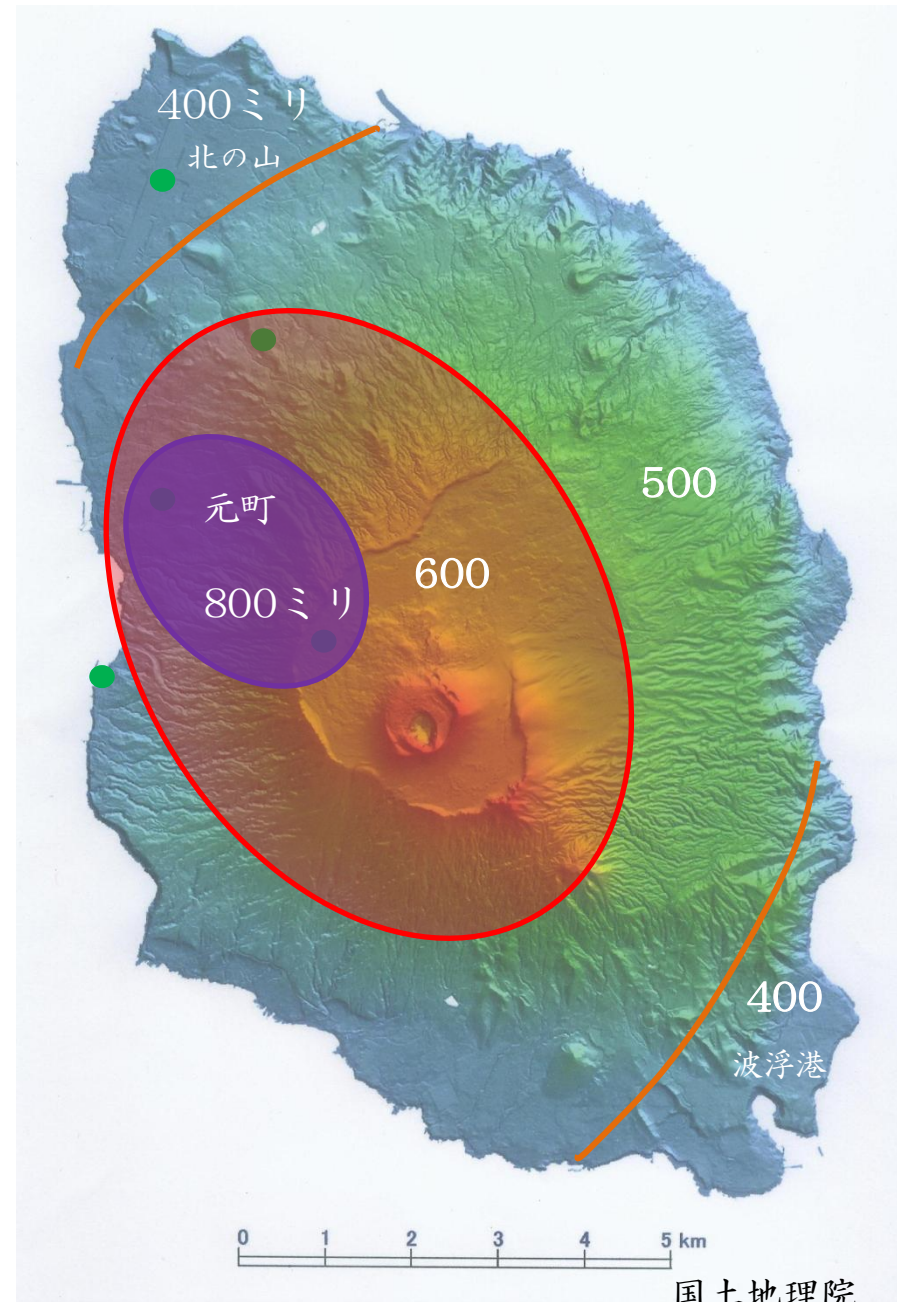
元町では北の山の2倍の降水量



気象庁



気象庁



16日02時00分～02時40分の地震計記録

16日02時03分

02時22分

02時32分

02時38分

野増

元町

山頂口

鎧端

裏砂漠

0.

5

10

15

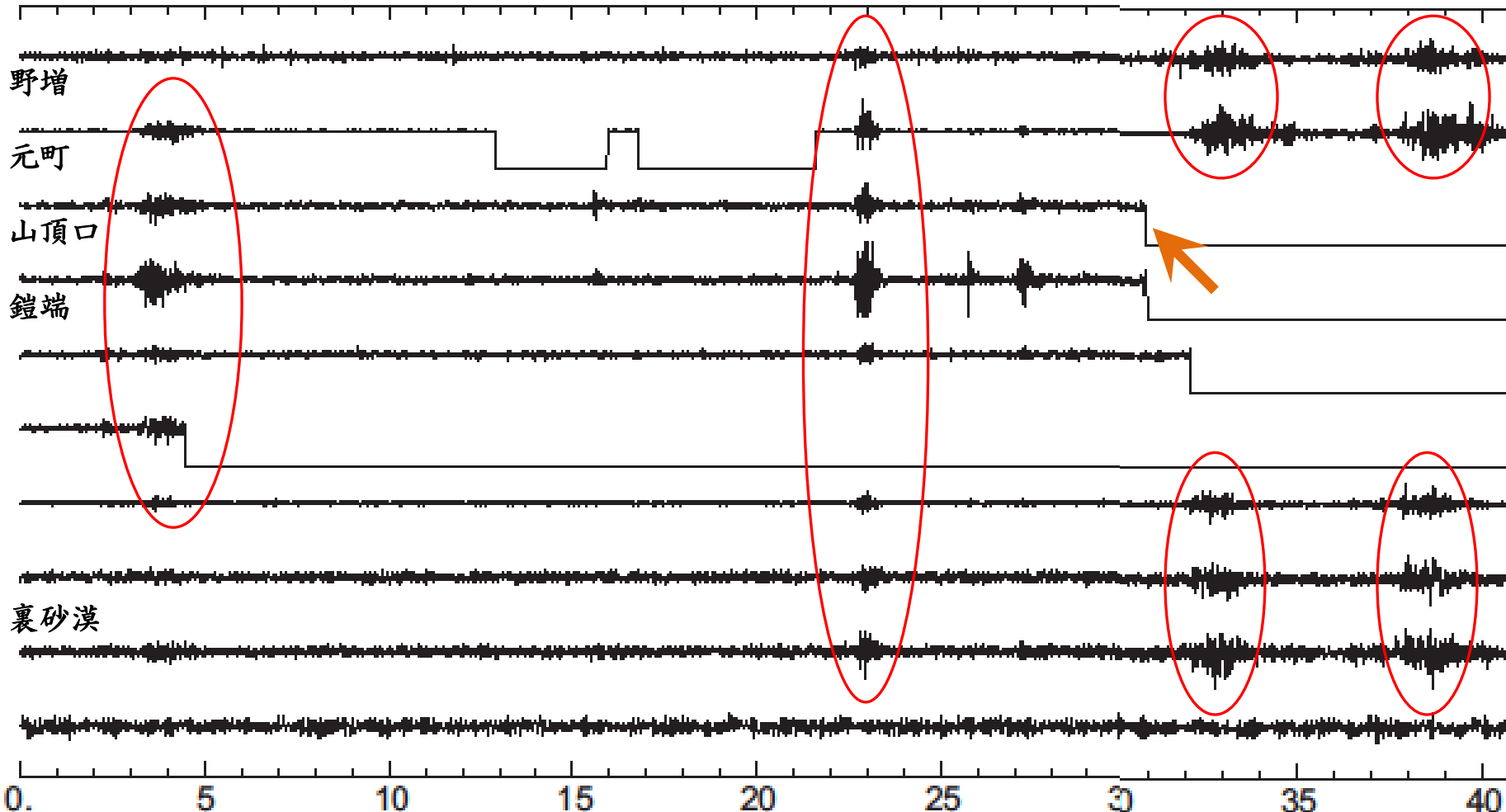
20

25

30

35

40



1958年9月24日
狩野川台風

総降水量448ミリ
1時間最大88ミリ
死者行方不明者2名
家屋損壊120以上



大島町



大島町

1592年～1595年
「びやく」
伊豆大島志考
立木猛治

新島村は、もと作川の下流下高洞に集落をなしていたが、文禄年中（一五九二〜九五五年）「びやく」におされて、現在の地域に集団移住したものと伝えられ、
・「びやく」とは、豪雨のため三原山腹から地下水が噴出し、土砂、立木、巖石などを交えて押し流す山津波のことである。時には、家屋はもちろん、一地域を埋没することすらあり、恐怖すべき惨害をもたらす。

- ・元町で堆積物として確認される火山泥流だけで5枚？
- ・百年～数十年おきに火山泥流が発生していたかもしれない。
(東京大学地震研究所 中田節也)

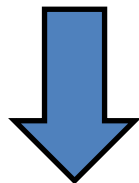


東京都河川部計画課

火 山
火山灰
急傾斜地

崖崩れ
土石流

台 風
大暴
雨風



防 災 ・ 減 災

